

モンゴル帝国と元寇

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

モンゴル帝国はどのように広がり、元軍の襲来に幕府はどう立ち向かったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 モンゴル帝国と東西の交流

世界の動き

チンギス・ハン

13世紀の初め、モンゴルの諸部族を統一し、モンゴル帝国を築いた。

13世紀の初め、**チンギス・ハン**はモンゴルの諸部族を統一し、**モンゴル帝国**を築いた。帝国はユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国となった。孫の**フビライ・ハン**は国号を**元**と改めて都を**大都**(今の北京)に置き、朝鮮半島の**高麗**を従えた。元はのちに中国の南宋もほろぼし、中国全土を支配した。

フビライ・ハン

チンギス・ハンの孫。国号を元と改め、都を大都に置いた。

モンゴル帝国の時代には各地を結ぶ道が整えられ、東西の人や品物、文化の行き来がさかんになった。元を訪れたヴェネツィアの商人**マルコ・ポーロ**は、旅の記録で日本を「黄金の国」と紹介した。フビライは日本にもたびたび使者を送り、元に従うよう求めた。海でへだてられた日本も、この大きな動きと無関係ではいられなくなった。

元

フビライ・ハンが国号を改めた国。都は大都(今の北京)。

マルコ・ポーロ

元を訪れたイタリアの商人。旅の記録で日本を「黄金の国」と紹介した。

2 元寇 — 文永の役と弘安の役

元軍との戦い

北条時宗

元の服属要求を拒んだ、鎌倉幕府の執権。

執権の**北条時宗**が元の要求を拒むと、1274年、元と高麗の軍は対馬・壱岐をおそい、九州北部の博多湾に上陸した。これを**文永の役**という。御家人は、元軍の**集団戦法**や、火薬を使った武器の**てっほう**に苦戦したが、元軍は短い期間で引きあげた。

元寇

文永の役と弘安の役、2度の元軍の襲来をまとめた呼び方。

幕府は御家人に九州北部の沿岸の警備を命じ、博多湾の沿岸に石の**防塁**(石塁)を築いて備えた。1281年、元は再び大軍を送ったが(**弘安の役**)、防塁や御家人の抵抗にはばまれて博多湾岸に上陸できず、暴風雨で大きな損害を受けて退いた。2度の襲来をあわせて**元寇**という。

防塁

幕府が博多湾の沿岸に築いた石の防壁。石塁ともいう。

元の服属要求を
北条時宗が拒否1274年
文永の役
博多湾に上陸幕府が
防塁を築く1281年
弘安の役
博多への上陸を防ぐ

問いへの答え

13世紀にチンギス・ハンが築いたモンゴル帝国はユーラシアの東西に広がり、孫のフビライ・ハンが国号を元と改めて日本にも服属を求めた。執権北条時宗がこれを拒むと、元軍は1274年の文永の役、1281年の弘安の役と2度襲来したが、幕府は防塁を築いて守りを固め、御家人の抵抗や暴風雨もあって元軍を退けた。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

